

ウェブアクセシビリティを組織に浸透させる、 チェックシートの再定義

CONCENT

株式会社コンセント 東海林慶祐・山本泰子



ウェブアクセシビリティとは

利用者の障害の有無やその程度、年齢や利用環境にかかわらず、ウェブで提供されている情報やサービスを利用できること、またはその到達度を意味しています。

(出典：デジタル庁『ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック』(2024年3月29日発行) p.8)

なぜ再定義が必要なのか？

これまで、WCAGなどの規格に準拠することが目的化し、ウェブサイトを利用するユーザーだけでなく、制作・実装・デザインする側にとっても運用が複雑で理解しにくいという課題がありました。形式的なチェックに終始し、「すべての人が使いやすいウェブサイトを考え、実践する」という本質的な目的が見失われてしまうことも多々ありました。

本プロジェクトでは、ウェブ制作に関わるすべての人がウェブアクセシビリティの意義を理解し、実践しやすい環境を整えることを目的にチェックシートを再定義しました。これにより、より多くのユーザーの多様なニーズに対応するウェブサイトの実現を目指しました。

チェックシートのデザイン

「チェックすること」自体が目的とならないように、各設計段階でアクセシビリティの課題を発見し、解決策を見出すためのプロセスを支援することを念頭に設計しています。

POINT1

ウェブアクセシビリティでできることを問いかける

このチェックシートの項目は、チェックリストとして使うだけでなく、各設計段階で「どのようにウェブアクセシビリティを考慮すべきか？」と問いかける役割を持たせています。これにより、規格に合っているかどうかだけでなく、各担当フェーズで創造的な解決策を見出すことを促します。

- 「コンテンツ作成」「デザイン」「開発・オーサリング」のフェーズごとにチェック項目を設定。
- 様々な制作プロセスにも対応できるように、チェック項目の責任範囲を調整し、フェーズ間での連携を促進。

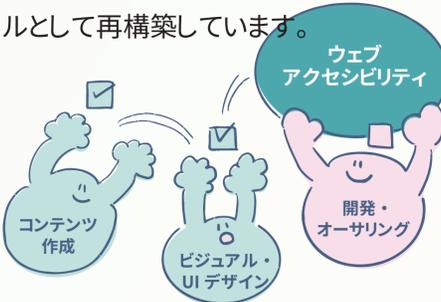


POINT2

全員参加型のウェブアクセシビリティの実践をめざす

ウェブ制作に関わるすべての人々にとって理解しやすく、実践しやすい形に分割・統合しました。技術的なチェックリストとしてだけでなく、設計者、デザイナー、開発者がそれぞれの視点からウェブアクセシビリティを考慮し、実践できるようサポートするツールとして再構築しています。

- サイト制作者が理解しやすいように、WCAGの項目を再編成し、実際のサイト制作に役立つ項目として再構成。
- チェック項目を、対象とするコンテンツの種類(画像、動画、フォームなど)と紐付けて、制作の各ステップで具体的な指針を提供。



まとめ

ウェブアクセシビリティの確保・向上には、障害の有無や年齢、環境や状況にかかわらず、すべてのユーザーが使いやすいウェブサイトを考え、デザインすることが不可欠です。そのためには、ウェブ制作に関わるすべての人がアクセシビリティへの理解を深め、連携して取り組むことが求められます。

本プロジェクトでは、チェックシートを再定義し、単なる技術的なチェックリストにとどまらず、ウェブサイトの設計・開発プロセス全体にアクセシビリティの視点を組み込むツールへと進化させました。これにより、設計段階から各プロセスでの連携を促進し、規格に準拠するだけに留まらず、ユーザーの多様なニーズに対応したウェブサイトを構築することが可能となります。

本チェックシートは、リリースまもないため、今後の運用を通じて成果や課題を収集し、改良を続ける予定です。この取り組みが他の企業や団体にも広がり、ウェブアクセシビリティの新たなアプローチの1つとなることを目指します。

WCAGとは？

W3Cが勧告するガイドラインで、ウェブコンテンツのアクセシビリティを確保するためのガイドラインと達成方法の一例などが記載。さまざまな障害への対応や、ウェブ技術の進化や新しいデバイスの登場などの利用状況の変化に対応するためアップデートされる。

WCAG2.0 : ISOやJISで採用されているバージョン

WCAG2.2 : 最新の勧告バージョン

デザインプロセス

ユーザーインタビュー

制作会社のディレクター・デザイナー・オーサー複数名にインタビュー。現状課題やチェックシートや各種ツールの使用状況を把握。

インタビュー結果 (抜粋)

(n=6)

表現の問題	<ul style="list-style-type: none">ウェブアクセシビリティの知見が少なく、文章表現が分かりにくい、具体的な例が欲しい初見では読み解きが難しいが、サポートを受け読み込めば十分に理解できる
企業独自の判断に関わる問題	<ul style="list-style-type: none">企業が使用しているAEMではどうか判断が難しい企業の提供しているチェックシートとWCAGの参照に課題がある機械チェックツールの結果と合わせて判断は難しい
運用の問題	<ul style="list-style-type: none">前工程でのチェックがされておらず、オーサリング段階では対応しきれないこともある。フェーズごとにシートが分かれているとサイト更新では、使いづらい

ディスカッション /

機械評価ツールの検証

ウェブアクセシビリティの経験豊富なエンジニアを交え、ウェブアクセシビリティの現在や未来や、外部発信や運用のあり方など幅広くディスカッション。機械評価ツールの検証については別途実施。

要件定義・再編集

リテラシーごとにペルソナを整理し、要件を定義。構成の見直しとともにチェック項目を編集。

文章表現の再考

プロトタイプでの簡易テストも実施し、調整。

デザイン・データ整形

自然にアクセシビリティに取り組めるサポートを目指して

制作会社様へのインタビューやプロトタイプでのテストを通じ、制作プロセスでの使いやすさを徹底的に検証しました。デザイナー、エンジニア、コンテンツ制作者が無理なく活用し、積極的に参加できるサポートとは何か?とまだまだ試行錯誤しています。

チェックシートを通じた学び

サイト制作時のチェックシートでのチェックを介してや、チェックシート自体を学びのツールとして活用することで、関係者がウェブアクセシビリティに対する知見を深め、ウェブアクセシビリティを継続的に確保・向上することに貢献できることを期待しています。

プロジェクトメンバー (一部)

土屋 : アクセシビリティとユーザビリティを同時に見据えたデジタルコンテンツの検証、改善、設計が専門。HCD-Net 認定 人間中心設計専門家。

東海林 : 改訂をリードし、アクセシビリティの組織導入を推進するサービスデザイナー。

山本 : インクルーシブデザインを専門とする本プロジェクトのリーダー。HCD-Net 認定 人間中心設計専門家。



土屋



東海林



山本